

月報・日本から発信！

7月号の内容

「情報発信プラットフォーム」(6月)掲載の主要論文の要旨

コリア:それは核兵器やミサイルではなく、葬儀を示す

スペンサー・キム (パシフィック・センチュリー・インスティテュート創設者)
核実験やミサイル発射など最近の北朝鮮の動きが、ニュースのヘッドラインを賑わせているが、既に進行中の武勇伝においては別の話しに過ぎない。米国にとっては、今週朝鮮半島において、より重要な出来事があった。前韓国大統領の盧武鉉の死と葬儀は、深く憂慮された出来事である。米国にとっては、大きな余波がないかが重要である。盧前大統領が2002年に5年の任期のある選挙で勝利を収めたことは、韓国の“体制”にとって衝撃的な出来事であった。彼は貧しい育ちをし、決して大学に行くことなく、悪名高く難しい司法試験に独学で合格した。弁護士として彼は、継続的な軍部独裁政権のもと、・・・・・・
原文: Korea: It's Not the Bomb; It's the Funeral
http://www.glocom.org/opinions/essays/20090605_kim_korea/

北朝鮮の核実験と追い込まれた中国

朱鋒 (北京大学国際関係学院教授)
5月25日の北朝鮮の二回目の核実験は、予想出来ない事ではなかった。何としても核抑止力を強化すると脅した後の4月28日に、平壤は明らかに国際社会への挑発的行動を行き着くところまでやるというシグナルを送り、4月5日の問題の多いミサイル発射実験に続いて、4月14日に六カ国協議から離脱し、核施設を復活させると宣言した。その結果、二回目の核実験があったが、親愛なる指導者の乱心における次のステップは、中国政府を驚かせることはなかった。むしろ今の時期に北京を啞然とさせたのは、北朝鮮の核実験のやり方である。・・
原文: North Korea Nuclear Test and Cornered China
http://www.glocom.org/debates/20090612_zhu_north/

ギロチン:人口統計と日本の安全保障の選択肢

ブラッド・グロッサーマン、トモコ・ツノダ (CSIS パシフィック・フォーラム)
これからの数ヶ月は、日本の防衛と安全保障政策にとって、重要なときとなるであろう。国の安全保障政策の概略を纏めた新たな防衛大綱は、今年終わりには出来る予定である。逆に言えばこれは、特別な計画や購買予定の概略を示した中間防衛計画の基礎を提供するといえる。この新防衛大綱は、日本(や他の諸国)にとって、北朝鮮の核実験やミサイル発射に揺さぶられ、中国の軍備の近代化を理解しようとする、特別に過敏な時期に準備されつつある。これらの思案につきまとうのは、米国との高まる緊張関係であり、総選挙を間近に控えた国の政府に歴史的な変化が起きるのではないかという予想である。・・・・
原文: The Guillotine: Demographics and Japan's Security Options
http://www.glocom.org/opinions/essays/20090620_gloss_the/

BRICsの金融政策の挑戦

ブレンダン・ケリー (元米国防省中国担当課長)
6月16日に、ブラジル、ロシア、インドと中国の指導者らが、エカチェリンコで会ったが、これはロシアでは最初の公式なBRICs(ブリックス)の会合となった。この会合での最優先課題は、国際財政と金融システムの改革である。BRICsは、ここ幾十年世界経済の事実上の「運営委員会」としての役割を担い、来月イタリアで集うG7・G8に挑戦するために、それへの対抗案を提案した。実質的中身をみてみると、BRICsのメッセージは明確である。これら成長する経済国家は、国際金融財政機関のなかでのより大きな発言力と代表権、・・・・・・
原文: The BRICs' Monetary Challenge
http://www.glocom.org/opinions/essays/20090627_kelly_brics/

情報発信機構とは

「情報発信機構」は、日本をめぐる重要問題について有識者や専門家の意見や討論をグローバルに発信することを使命とする非営利組織。
ウェブ上では情報発信プラットフォーム(www.glocom.org)で、オピニオン、ディベート、ニュースなどを発信、またニュースレターやメールマガジンも定期的に発行。さらにセミナーも毎月開催。

情報発信ニュースレター: 編集後記

月報・日本から発信!

月1回発行
発行人・編集長 前田幹博
学校法人国際大学・情報発信機構
949-7277
新潟県南魚沼市国際町777番地
TEL:090-8106-4700
Email:maedam@iuj.ac.jp

今月は上記4つを主要論文としてアップ致しました。更に、南カリフォルニア大学から2つのコメント論文が寄せられ、Debates欄に掲載されました。ひとつは今年1月に掲載された石塚雅彦氏の論文に対するKunagal Kanagal氏のコメントで、もうひとつは4月に掲載されたHadi Soesastro氏の論文に対するJessica Honggo氏のコメントです。来月もご期待ください。前田幹博情報発信機構編集長